

漢字教育の大切さ確認

漢字文化の今を考える公開フォーラム「漢字教育の現場から」が十九日、京都市左京区の京都大百周年記念ホールで開かれた。一線の教員による講演や討論会があり、コンピューター全盛時代における手書き学習の大切さが確認された。

先進的な教育を目指す文部科学省の二十一世紀COEプログラム「東アジア世界の人文情報学研究教育拠点」の一環で、京都大と京都新聞社が催した。教育関係者や市民百六十人が来場した。

市内の小中高校や京大の教員が若者の漢字書き取り能力の現状や授業で心がけている工夫を報告した。続くパネル討論では、京大の教授から「大学生でも『専門』や『講義』などの誤字が目立つ」と問題提起。他の論者から「情報機器の発達で手書

左京でフォーラム 一線教員が意見交換



漢字教育の現状について、一線の教員が意見交換した公開フォーラム（京都市左京区・京都大百周年記念ホール）

きの機会が減った」「見た目の形だけでなく、漢字の成り立ちにまで立ち入った教育が必要だ」といった意見が寄せられた。